

天然ガス問題を巡る二つの国際エネルギーセミナー所感

(財) 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

7 月 19 日、東京において弊所が主催する 2 つの国際的なエネルギーセミナーが開催された。一つは、IEA の田中事務局長が国際エネルギー情勢全体の展望と課題について報告を行ったセミナーで、もう一つは、日本・オーストラリア合同エネルギーセミナーである。どちらのセミナーもその取り扱う内容が、今日のエネルギー情勢という視点から極めてタイムリーであり、内容も充実したものであった。以下では、そのセミナーにおける主要な議論について、筆者の所感をまとめてみたい。

まず、前者のセミナーでは、IEA 田中事務局長から、最近の IEA による協調石油備蓄放出、福島原子力発電事故による世界の原子力及びエネルギー需給への影響、ガスの「黄金時代シナリオ」の内容とインプリケーション、原子力発電・再生可能エネルギーとエネルギー安全保障問題、日本のエネルギー政策における課題、など極めて多岐にわたる、かつ重要な問題に関するプレゼンテーションが行われた。中でも、日豪の合同セミナーとも関連して、原子力発電の将来とガスへのインプリケーションという分析は大変興味深かった。

今回の分析では、IEA は福島事故を踏まえ、安全規制の厳格化によって廃炉が早まる原子炉の増加、投資の遅延・先送り、コスト増大等の結果として、原子力の普及拡大が従来への予測より鈍化する可能性がある、としている。今年 11 月に IEA が発表する予定の **World Energy Outlook (WEO2011)** において、より詳細な分析が示されることになろうが、原子力が低迷するシナリオでは、世界の発電に占める原子力のシェアが現在の 14% から 2035 年に 10% に低下する将来像が示された。その場合、原子力の低下分を様々な電源が補うことになるが、その中心となるのが天然ガスである、ということがこの報告の重要な主張であったといえよう。もちろん、ガスの利用拡大を支える要因は、原子力発電の伸び悩みという要因だけでなく、中国をはじめとする途上国等での大幅な天然ガス需要拡大、交通用も含めた新たな需要分野の開拓等の需要サイドの要因があり、かつ、豊富な非在来型ガス資源の存在など供給サイドの要因も重要である、との見方が示されている。

また、もう一つ筆者にとって興味深かったのは、エネルギーセキュリティ問題を考える上での視点として、エネルギー自給率の低い国における原子力の役割や特定の供給国・地

域（例えば、中東・ロシアなど）への高い依存度と原子力の役割などについて、国際比較を踏まえた分析が示された点であった。また、電力網などのインフラ整備の状況が、国や地域を跨いで発展しているかどうかは、エネルギー選択の可能性に影響しうる要因であることが指摘された点も興味深く、今後のわが国のエネルギー政策を巡る議論においても有用な指摘であった。

次に、日本・オーストラリア合同エネルギーセミナーであるが、世界における主要なエネルギー消費・輸入国（日本）と主要なエネルギー資源・輸出国（豪州）の二国間の相互関係強化・深化に向け、極めて時宜を得た内容のセミナーであった。オーストラリア側からは、ファーガソン・エネルギー大臣をトップに、ウッドサイド、サントス、シェブロンなど豪州での LNG プロジェクトを牽引する主要な企業や政府機関の代表から講演があり、日本側からは、国際石油開発帝石、東京ガスの代表及び筆者がスピーチを行った。

特に各企業代表の報告は、それぞれの立場に基づき、両国にとっての天然ガス・LNG の重要性、オーストラリアの LNG の供給見通し、日本（及びアジア）の LNG 需要見通し、などについて、具体的な見方やプロジェクトベースの展望が示され、かつパートナーとして、お互いへの信頼・評価・期待が述べられたことが有意義であった。また、筆者にとって重要と思われたのは、個別の報告でそれぞれに特徴や重点のおき方の差異はあったものの、日豪両国のエネルギー面での長い歴史を持ったパートナー関係、豪州側における豊富なガス資源ポテンシャルに支えられた大きな供給拡大への期待、LNG 供給拡大を可能にする投資促進に向けた前向きな取組み、安定的で信頼の高い市場である日本における LNG 需要拡大の可能性、その可能性を踏まえた LNG 安定調達に向けた高い意欲と取組み、などの点において、両国関係者の問題意識が共有されていた、と感じた点である。

この問題意識の共有の背景には、大震災による影響で高まる LNG・天然ガスへの期待という要因があることは間違いないであろう。その点、最初に述べた IEA 田中事務局長の報告に示された世界の将来像と同じコンテキストで理解することができる。その上で、現在、世界最大の LNG 輸入国である日本と、大幅な能力拡大計画で、2020 年頃には世界最大の LNG 輸出国となることが期待されるオーストラリアが、相互の発展のため、両国関係を今まで以上に強化していく方向で官民共に議論が行われたことは、非常に有意義であった。

国際的なセミナーでの報告や議論はあくまで、そこでの「オピニオン」の表明である、と見ることができる。しかし、そこに表明される「オピニオン」には、紛れも無くその時々「時代感覚」が示されることがある。同じ日に、別々に開催された 2 つのセミナーを通じて、今、日本が、そして世界がエネルギーの問題で直面している問題とその解決に向けた重要な対策に関して、改めて幾つかの重要な論点を再認識する機会を得たように思う。

以上